

# 平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッコクアカエビ

学名 *Pandalus eous*

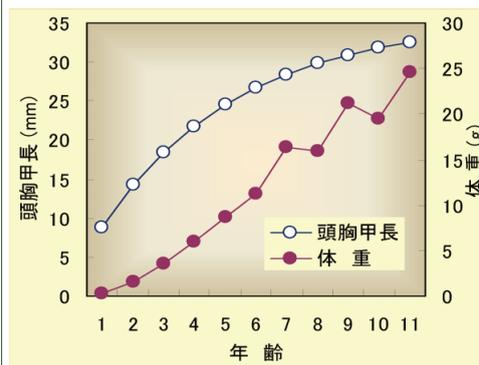
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 11年  
 成熟開始年齢: 雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳  
 産卵期・産卵場: 2~4月で隔年産卵、成長に伴い400~600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う、産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200~300mで幼生の孵出を行う  
 索餌期・索餌場: 主分布域と同海域  
 食性: 微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトライタス等  
 捕食者: マダラ、スケトウダラ等の底魚類



## 漁業の特徴

鳥取県~北海道沿岸の水深200~950mの深海底に生息し、分布の中心は200~550mにある。沖合底びき網、小型底びき網、かご網によって漁獲される。

## 漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,155トンにピークに減少傾向にあったが、1995年以降は2,000~2,200トン台で推移し、2005年以降は増加傾向にあり、2008年も2,616トンであった。主要な漁場は能登~若狭湾を中心とする日本海中部海域と大和堆である。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟県、福井県となっている。

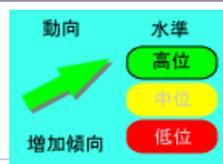


## 資源評価法

漁獲の50~60%を占める沖合底びき網漁業の資源量指数の推移及び、石川県と新潟県の小型底びき網漁業、えび籠漁業によるCPUEの経年変化、能登半島以西の本州沿岸海域で行った調査船による採集結果から得た資源量の指標値の経年変化を基礎とした。

## 資源状態

沖合底びき網の資源量指数は2002年以降増加傾向にあり、2008年はやや減少したものの、依然として高い水準にある。石川県、新潟県のえび籠漁業のCPUEは横ばいまたは減少傾向にあるが、沖底に次ぐ漁獲量を占める小型底びき網漁業の主漁場におけるCPUEは横ばいまたは増加傾向にある。調査船調査結果から算出した2009年の資源量指標値は前年より減少したものの、長期的には増加傾向にある。大和堆海域は2003年以降、累積努力量とCPUEの関係、CPUEともに安定しており、資源は良好に維持されていると推定される。したがって、資源水準は高位、動向は増加傾向にあると判断される。



## 管理方策

本州沿岸については資源量指数の予測値に応じた漁獲をしても現在の資源水準を維持できると判断し、2002年以降の資源量指数の増加傾向から2010年の資源量指数の予測値を求め、この値を2002年以降の資源量指数と系群全体の漁獲量の関係にあてはめてABClimitを算出した。大和堆は2003年以降の最高漁獲努力量(3,825網)を投入しても資源は十分維持されると判断し、平均CPUEを乗じてABClimitとした。これらの合計をABClimitとした。ABClimitは、これらの合計漁獲量に0.9を乗じて算定した。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,600トン	0.94本州沿岸C2008 1.5大和堆C2008	-	-
ABClimit	2,300トン	0.9・0.94本州沿岸C2008 0.9・1.5大和堆C2008	-	-

#### 資源評価のまとめ

- 沖合底びき網漁業の資源量指数は依然として高い水準にあり、資源状態は高位、動向は増加傾向と判断される
- 主漁場である日本海中部海域で2008年の沖合底びき網漁業の資源量指数が低下しており、注意を要する
- 本種を主対象とする大和堆漁場はCPUE、累積漁獲量とCPUEの関係から、2003年以降横ばいと判断した

#### 管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準が大幅に増加しなければ、資源水準は良好に維持される
- えび籠漁業において、漁獲物の小型化やCPUEの低下傾向が報告されており、今後注意して動向を見ていく必要がある
- 大和堆資源の利用にあたっては、漁期当初の資源水準を維持することが重要である

資源評価は毎年更新されます。